事業報告書

事業名　おそき いいとこ再発見！！

田舎暮らし体験「稲刈り」

田舎暮らし体験「さと芋掘り」

田舎暮らし体験「集合写真」

国際色豊かな「おもちつき」

１　実施団体　　おそきの学校と地域を考える会
２　担当課　　生活安全部住宅課、市民部市民活動推進課
３　実施時期　　４月１日～２月２８日
４　参加者　　小曽木地区を中心とした地域住民、および、小曽木地区に関心がある方
５　実施場所　　小曽木地区の全域
６　事業の目的　【自由提案】
小曽木地域の豊かな自然と、そこに集う様々な年齢の人々と出会い交流する体験から、在住者は地域に自信を持ち、地域外の方にはこんな暮らしもいいなと感じてもらえる事業を展開する。
同時に地域内の空き家等を利用し、地域に住める場所の確保を検討する。
７　役割分担　　団体の役割…事業の実施
担当課の役割…情報発信時のＰＲ協力、地域情報の提供、可能なイベントへの参加協力

８　事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

① 田舎暮らし体験を実施したことにより、毎日新聞を始めとするメディアの方々に小曽木地区でのイベントを報道いただき、都外・都区内、市外の方に小曽木地区の良さをＰＲできたとともに実感いただけた。

② ブログ内容の充実に加え、フェイスブックページを新たに立ち上げ、地域情報や興味のある方への情報発信力を高めることができた。

③ 小曽木っ子まつり、おもちつきの開催により、地域での幸福感向上が得られた。

④ 住宅課と協働で空き家対策に取り組んだことにより、小曽木地区だけでなく青梅市として、今後取り組む上での課題が明らかになった。

９　目標達成

事業の目標

①イベント時にアンケートを実施した結果として、「イベントなどを一緒にやってみたいと思う」という項目を設け、その割合が１割を超えること。

・小曽木っ子まつり……０名/回答４名中

・田舎暮らし体験……１名/回答２５名中　⇒3.4％目標未達

②青梅市以外からの地域イベント参加者が、１割を超えること。

・小曽木っ子まつり……０名/回答３名中

・田舎暮らし体験……２５名/回答１０５名中　⇒23％目標達成

目標の達成具合

①イベントへ主体的に関わろうという方は少なく、意識醸成にはもっと深い関わりが必要なことがわかった。

②田舎暮らし体験ではメディアへのＰＲが功を奏した結果、他地域からの多数の参加が得られるとともに移住希望者の存在も直接知ることができ、今後の地域活動の自信にもつながった。

10　事業の実施内容

①地域情報、イベント情報、地域ＰＲの発信の強化。

・ホームページまたはブログ利用　・フェイスブックの新規利用

②小曽木っ子まつりへの地域内外の方々の吸引をさらに強化。その場での地域ＰＲの実施。

③田舎暮らし体験の実施。

④お餅つきの実施。

⑤住宅課と連携した空き家等の活用方法の検討および情報発信。

・青梅市住宅施策推進協議会も連携し、情報収集と情報発信を実施。

11　実施団体と担当課の事業評価

４はい　３どちらかといえば「はい」　２どちらかといえば「いいえ」　１いいえ

調査項目	会	住宅課	市民活動推進課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	４	４	４
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	４	４	４
(3)協働の役割分担は適切だった	４	４	４
(4)協働相手は適切だった	４	４	４
(5)対等な立場での協力関係を築けた	４	４	４
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	４	４	４
(7)事業実施は円滑になされた	４	４	３
(8)設定した目標が達成された	４	４	３
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	４	４	３
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	４	４	３

12　まとめ（今後の課題や改善点など）

①地域情報の発信にフェイスブックを新規に立ち上げたことによって、ブログによる訪問者を待つ状況から、積極的な発信へつなげられた。ブログによる情報発信では、発信項目が増えた場合に見やすさが劣ってくることもわかったので、ホームページで簡易に更新できる形のものへの進化を狙いたい。

②小曽木っ子まつりは、子どもから高齢者までが一緒に集え、地域の方による遊びコーナー設置により生き甲斐作りにもつながる状況が作れている。
地域情報発信も行ったが、参加者は地域内の方が大半であった。

③「OME city おそき DE 田舎暮らし体験」は、参加者 105 名（小学生以上 85 名、幼児 20 名）、都外４％、都内で市外２０％、青梅市内で小曽木外５３％、小曽木内２３％。スタッフ参加者 31 名を加えると、１３６名が参加した大イベントとなった。
メディア取材は、毎日新聞（都区内版・多摩版）、読売新聞、ＴＣＮ、西多摩新聞、西の風から受け、そのすべてで掲載または上映いただけた。毎日新聞には、空き家対策を引き続き取材していただいている。

④おもちつきは、横田基地のファミリーを含め７２名の参加、スタッフ２４名の計９６名参加。ゲームで交流する時間も設けて、国際色豊かなイベントができた。

⑤「空き家活用方法の検討」は、住宅課の積極的な取り組みにより、検討を越えた活動に入った。住宅課・青梅市住宅施策推進協議会・

当会の三者での協働事業として、１年間ほぼ毎月打ち合わせを実施しながら活動を進め、協働事業のお手本ともいうべき活動ができたと考えている。

次年度の活動へ向けては、「一般財団法人地域活性化センター」への「平成 27 年度 移住・定住・交流推進支援事業」へ当会は青梅市を通じて助成金額 200 万円での空き家対策申請し、150 万円で採択された。これは青梅市の市民活動推進上も大変大きな出来事であり、３年前の市民提案協働事業開始とともに活性化した当会の事業が、更に次年度活発化することにつながる。

空き家対策を１年間熱心に三者で進めてきたが、直接地域住民の増加につながる結果は得られなかった。しかしながら、不動産取引上の仲介できない問題、一部業者の情報のみが発信される結果となる問題、既存建物が市街化調整区域が指定された昭和４５年（いわゆる線引き）以前の建築か以後かによる問題、不動産所有者の相続問題等、様々な問題が空き家対策には課せられている状況を理解することができ、今後の国の施策動向に合わせてのスムーズな展開につなげられる準備をすることができた。

13　その他　特になし

以　上